

米国出張報告

平成25年7月

7月23日（火）から7月27日（土）の日程で米国に出張してきました。参議院選挙直後、また日本のTPP参加直後というタイムリーな時期であり、有意義な出張でした。

1. 閣僚、連邦議員との会談（7月24日（水）、ワシントンDC）

第2期オバマ政権発足後新たに就任したモニーツエネルギー長官、プリツカー商務長官、フロマン通商代表の3閣僚（私のカウンターパート）等と通商政策、エネルギー政策、成長戦略をはじめとする経済産業政策について幅広く意見交換を行いました。

（1）モニーツエネルギー長官との会談

米国からのLNG輸出、メタンハイドレート、安全性や廃炉を含む原子力政策、クリーンエネルギーにおける協力について意見交換を行いました。

LNG輸出については、日本企業が関与するプロジェクトについて早期の輸出承認を要請し、本件が日本にとって最重要の課題であることを強調しました。

また、こうした議論を踏まえ、日米間のエネルギー分野の協力関係の強化に向けて、「共同声明」を発出しました。



（2）プリツカー商務長官との会談

成長戦略、貿易投資促進に向けた日米協力、エネルギー分野・ヘルスケア分野などにおける日米協力について意見交換を行いました。安倍政権での日本経済再生への取り組みについて米国も強い関心と期待を持っていることを感じました。



(3) フロマン通商代表との会談

通商政策、TPPやWTO／ITA拡大交渉などでの日米協力について意見交換を行いました。

TPPについては、ちょうどマレーシア会合が行われている時であり、日本のTPP参加を受けて、できるだけ早期に包括的で高い水準の協定を妥結すべく、日米で協力していくことを確認しました。

また、フロマン代表とは、通商戦略と価値観を共有する国の閣僚同士として、いつでもEメールを含めて連絡を取り合おうというお話をしました。



(4) マコウスキー上院議員との会談

今後の我が国のエネルギー政策や原子力分野の最新の状況について説明をしました。また、議員から、米国からのLNG輸出の承認について、できる限り支援をしていきたいというお話がありました。

マコウスキー議員が、議会での投票があるということで、会談場所として連邦議会内の「大統領の間」を用意してくれました。



(マコウスキー連邦上院議員との会談)
(於 議会内の「大統領の間」)

2. 企業視察（7月25日（木）、26日（金））

ロッキード・マーティン社サイバーセンター、ストラタシス社、グーグル社を訪問し、各分野での最先端の取組を視察しました。

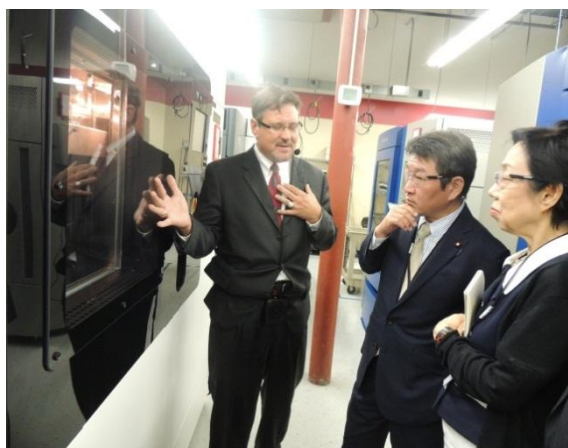
（1）ロッキード・マーティン社サイバーセンター（ワシントンDC郊外）

近年世界的にサイバー攻撃の脅威が高まる中、同社は、IT業界トップ企業と共同で、サイバー攻撃の高度化に対応していくための研究開発、連携を行っています。同センターでは、こうした最先端の取組やサイバーセキュリティに関するオペレーティングルームなどを視察しました。



（2）ストラタシス社（ミネアポリス）

ストラタシス社及びそのグループ企業であるレッドアイ社を視察しました。同社は、樹脂による3Dプリンタの世界シェアで5割以上を持つ世界トップ企業です。3Dプリンタによる試作の現場など、製造革命の現場を視察しました。「ものづくり」の現場は大きく進化しています。



(3) グーグル社 (サンフランシスコ)

カリフォルニアの太陽が降りそそぎ、広い屋外スペース、様々なカフェやスポーツジムまで持つ、彼らが「キャンパス」と呼ぶグーグル本社を訪問。同社は、新しい成長の源泉として注目を集める「ビッグデータ」活用の代表的企業です。「グーグルグラス」など最先端技術を体験するとともに、自由で斬新な発想を生み出す先進的なオフィス「グーグルキャンパス」を視察しました。



(グーグルグラスを着用)



(こんなオープンスペースが敷地内のいたる所に)